



編集発行 南薩地域振興局農林水産部農政普及課
南薩地域振興局農林水産部農政普及課指宿市十二町駐在

TEL 0993-52-1359

TEL 0993-22-6422

県本土産「咲八姫」南九州市川辺町より初出荷！

1 「咲八姫」について

「咲八姫」は鹿児島県が育成したテッポウユリ初の八重咲き品種で、令和4年ジャパンフラワーセレクション切り花部門において、最優秀賞の「フラワーオブザイヤー2022」を受賞した注目度の高い花です。沖永良部では令和4年4月より出荷されています。南九州市川辺町でも2年間の現地試験に取り組み、今年度初出荷を迎えました。県本土からの出荷は初めてとなります。



2 出荷までの経過

令和4年12月出しと令和5年4月下旬～5月上旬出し（季咲き栽培）、令和5年5月中下旬出し（抑制栽培）の3作型で実証を開始しました。

季咲き栽培においては小さな球根で正常花が約9割と高く、草丈と輪数ともに確保できたため、適した作型と判断し、令和6年に、季咲き栽培の出荷に踏み切りました。

3 出荷実績について

初出荷は、令和6年4月13日、出荷期間は約2週間でした。暖冬で例年より気温が高く推移したことから想定より約2週間出荷が早まりましたが、出荷率は8割超えと好成績でした。

契約販売で通常のユリより約2倍以上の高値で取引され、東京、仙台を中心に出荷を行いました。総出荷本数は約1,400本、最も求められる秀品率は約8割と高く、今作型においては安定生産が見込める結果となりました。

4 今後について

「咲八姫」は一般的なテッポウユリより品質やボリュームにおいて高い評価を受けています。球根の自家増殖も行っており、来年度はさらに出荷本数が増えることが見込まれます。さらなる需要拡大に向けてSNS等を活用したPR活動など周知が必要で、県一体となって「咲八姫」の生産振興に取り組んでいきます。





みどりに恋を。

「観葉のまち指宿」の取組



1 はじめに

全国有数の観葉植物の生産地「指宿市」。温泉熱を利用した観葉植物の生産は、約70年の歴史を誇ります。

令和2年3月、指宿市の観葉植物及び観光産業の振興を図ることを目的に「観葉のまち指宿協議会」【構成団体:JAいぶすき観葉植物部会、観葉女性部Ms.の会、JAいぶすき、指宿市観光協会、指宿市(農政・観光・ふるさと納税3課)、県(農政普及課)】が設立され、これまでに統一ロゴやキャッチフレーズ、PRアイテム、PR動画等を作成し、知名度向上や販路拡大に向けた取組を展開してきました。

今回は令和5年度の活動の一部を紹介します。

2 観葉のまち指宿協議会の活動

(1) かごしま国体と連携したPR・販売会

燃ゆる感動かごしま国体の開会式が行われた10月7日、開会式場のぐりぶー広場で、観葉植物の販売会を開催し、指宿市産の観葉植物を来県者へPRしました。



国体開会式での販売会

また、指宿市内の競技場のインタビューボードを植物装飾し、『観葉のまち指宿』をPRしました。



インタビューボードを植物装飾

(2) 地元小学校への出前授業

指宿小学校の3、4年生約90名が、指宿市の観葉植物の歴史や生産品目について勉強しました。

授業の後半はエバーフレッシュの鉢替え体験が行われ、土を触りながら楽しく弾む児童の声が聞かれました。



小学校での出前授業



鉢替え体験

(3) 県外消費地におけるPR・販売会

JR博多駅構内で開催されたイベント(まるっと南薩フェア)と連携し、県外消費者へ向けたPR・販売会を開催しました。

3 今後の活動

観葉植物業界は巣ごもり需要が落ち着き、今後はコロナ禍を機に増えた自宅で育てたい観葉植物ファンの確保に向けた対応が求められています。

令和6年度も積極的にPR・販売活動を行い、「観葉のまち指宿」を多くの人に知ってもらおうとともに、指宿市産の観葉植物ファンを増やしていけるような取組を行っていきます。

根深ネギの『ハモグリバエB系統防除』対策について

1 ネギハモグリバエB系統の被害

ネギハモグリバエは、体調2mmほどの小さなハエです。県内では、令和2年度に従来のA系統とは遺伝子の異なるB系統が確認され、各産地に広がっています。葉の被害により成長が遅れたり、白化して枯死するなど大きな被害をもたらしています。



ネギハモグリバエ



白化した根深ネギ

2 管内の発生状況

令和5年度には、南さつま市や枕崎市を中心に、7月頃から発生圃場が増加し、11月頃まで被害が続きました。令和6年度には、前年の被害圃場で3月の発生が確認され、発生時期の前進化が顕著になっています。

3 防除のポイント

- (1) 初期発生の確認
 - ・黄色粘着板の活用による成虫の確認
 - ・産卵痕の確認
- (2) 効果のある薬剤散布で密度を抑制
 - ・育苗期の後半から防除を開始
 - ・IRACコードの異なる薬剤をローテーション散布
 - ・展着剤加用で防除効果アップ！
- (3) 残さない対策で発生源をシャットアウト！
 - ・収穫終了後速やかに耕耘し、圃場残渣等をすきこみ腐熟を促進



縦に連なる産卵痕



トラップ発生調査

水稻栽培の管理について

1 早期水稻について

① 早期落水に注意

- 水稻は十分実るまでに水が十分あった方が登熟は良くなる。
- 早期落水は登熟に影響がみられ、未熟粒等で等級が落ちる。

② 刈り取り適期に注意

- 刈り取り適期は、穂がほぼ出揃ってから30～35日頃。
- 一穂の中に青粃が8～10粒（穂の10%程度）が刈り取りの目安。

③ 「なつほのか」等の晩生品種ではウンカに注意

- 湛水状態が長いと高温環境で増殖に最適のため、間断灌がいを行う。
- 稲の株元に生息するので、粉剤や液剤で防除する場合は、薬剤が株元に届くよう散布する。
- ほ場でサークル状の変色が認められたら、早刈りを行い被害を最小限に留める。



図1ウンカによる坪枯れ

2 普通水稻について

① いもち病に注意

- 曇天や低温に遭遇する天候では、葉いもちの発生が予測されるので、薬剤による防除を実施し、穂いもち病への進行を抑止する。

② 中干しを行う

- 茎数が20本以上確保できた時点で地面に軽くひびが入る程度に5～10日間中干しする。
- 過剰生育の抑止、遅れ穂の発生抑止、地耐力が上がり、収穫時の作業性が向上する。

③ 稲こうじ病に注意

- 前年、粃に暗緑色の塊が発生したほ場は出穂20～10日前に銅剤を散布し予防する。



図2いもち病